

韓国語初学者向け手書き電子教材の活用による教育的な効果

金 義鎮*, 金 惠鎮**

Educational Effects of Self-study Software for Korean Beginners

Euijin Kim*, Hyejin Kim**

1. はじめに

近年、日韓の学校間での交流が盛んで、日本の高校や大学の国際交流においても韓国は重要な国となっている。その影響で、韓国語が開設されている高校数は1999年に比べ、2006年度は3.25倍(426校)であり、その倍率は同期間の他の第2外国語(中国語:2.2倍増(819校), フランス語:1.67倍増(393校), ドイツ語:1.44倍増(157校))より極めて高い⁽¹⁾⁽²⁾。同じ傾向が大学でも現れて、韓国語科目の開設は2000年に比べ、2006年度は263校から409校に大きく増加したが、他の第2外国語科目の開設増加は横ばいであった⁽¹⁾⁽²⁾。しかし、急速な韓国語科目の開設に伴い、良質な教員確保と学習教材の不足が問題として現われている。2008年現在、韓国語の高校教員免許が取れる大学・院の数はわずか13カ所であり、他の外国語(中国語:114, フランス語:119, ドイツ語:113)と比べ、その数が極端に少ない(1)。また、日本の大学において韓国語専任教員もわずか27名程度であり、大学での講義のほとんどは非常勤講師で補い、良質な教育が難しいという指摘もあった⁽³⁾。さらに、きちんとした教授法や理論に基づいた学習教材が不十分であり、良質な“学習教材の開発”も急務である⁽²⁾。このような状況から、学校では足りない講義数や大勢の受講者数などの時・空間

的な制約が生じている。上述した問題を解決する一つの方法として、最近電子教材の活用が試みられているが、その種類や実例も他の外国語に比べて少ない⁽⁴⁾⁽⁵⁾。

このような背景から、以前われわれは韓国語初学者向け手書き電子教材を開発した(6)。その電子教材は手書き学習法を前提とした新たなドリル学習教材であった。われわれはその電子教材の教育的な効果を確認するために、初学者230名の協力を求めた。本文では韓国語初学者を対象とする手書き電子教材の活用により得られた有効な教育的効果について述べる。以下、2章では手書きドリル学習の重要性の説明と活用した手書き電子教材を簡略に説明する。3章では、手書き電子教材の実践活用による教育的な有効性を評価アンケート結果により確かめる。最後に、4章では考察と今後の展望について述べる。

2. 初学者向け手書き電子教材

外国語を習得するためには「書く」「読む」「話す」「聴く」という四つの重要な基礎能力が必要である。特に、韓国語初学者は書きに関して、他の外国語より難しさを感じる。フランス語やドイツ語はアルファベットを、中国語は漢字を基本とするので、初学者にとって馴染んだ文字である。しかし、韓国語はそれらの言

*東北学院大学工学部電気情報工学科 (Tohoku Gakuin University)

**東北学院大学教養学部言語文化学科 (Tohoku Gakuin University)

受付日: 2009年9月7日; 再受付日: 2009年12月15日; 採録日: 2010年1月8日